



2018年度『蔵前特別賞』・『蔵前ベンチャー賞』 授与式・受賞者記念講演会

一般社団法人蔵前工業会はベンチャーの育成を目的に2007年度から『蔵前ベンチャー賞』を設置しました。今回で12回目になります。東工大・蔵前の有望ベンチャーの発掘・表彰を行ってきました。また2009年度から『蔵前特別賞』を設置し、社会に顕著に貢献した個人および企業・団体を表彰しています。

今年度は2018年12月4日（火）に東工大蔵前会館くらまえホールにて行われました（参加者131名（うち学生7名））。ベンチャー賞受賞企業4社のうち3社は、東工大に留学した海外の卒業生による創業で、東工大および卒業生の国際化の進展が示されました。

授与式、記念講演会後にはロイヤルブルーホールにて交流会が開催され、学長、理事・副学長をはじめ大学関係者の参加が多く、いつも以上に大学と同窓会の交流が盛り上がりました（参加者104名（うち学生7名））。



前列左より受賞者 川口 卓志氏、豊原 明氏、滝 久雄氏、三島 良直氏、林 経正氏、景 建平氏、ロバート・クレッパ―氏*
後列左より 益 一哉東工大学長、石田 義雄理事長、福島 洋経産省技術総括・保安審議官
*ロバート・クレッパ―氏はドイツからSkype（スカイプ：インターネット電話）で参加

1. 『蔵前特別賞』・『蔵前ベンチャー賞』授与式

(1) 2018年度蔵前特別賞

受賞者	受賞理由
<p>滝 久雄 氏 1963年 機械工学科卒 (株)NKB取締役会長 創業者 (株)ぐるなび 代表取締役会長 CEO・創業者 蔵前工業会相談役（前理事長） 東京工業大学名誉博士</p>	<p>「ぐるなび」を創業し、発展させた功績で2007年度に蔵前ベンチャー大賞を受賞した。その後「ぐるなび総研」を設立し、日本の誇る食文化を世界に発信し続けている。日本のパブリックアートの普及、「ペア碁」の創案・普及など文化芸術面で幅広く貢献している。東工大に多大な支援をされているが、2017年度には学生向け国際交流施設「Hisao & Hiroko Taki Plaza」建設のため多額の私財を寄附された。</p>

<p>三島 良直 氏 東工大名誉教授 1973年 金属工学科卒・75年修士課程修了, 1979年 カリフォルニア大学バークレー校 博士課程修了 東工大教授 (1997年～ 2011年) 東工大理事・副学長 (2011年～ 2012年) 東工大学長 (2012年～ 2018年)</p>	<p>東工大の教育改革, 研究改革を強いリーダーシップのもとにまとめ上げた。教育改革では大学と大学院を連結した学院制とした。さらに、「世界の研究ハブ」としての体制の強化, 「新たな研究分野を開拓していくための柔軟な体制の構築」を目指し, 「科学技術創成研究院」を立ち上げた。東工大を「世界のトップテンに入るリサーチユニバーシティ」を目指す取り組みとして大いに評価されるところである。2018年3月に指定国立大学法人の指定を受けた。</p>
--	---

(2) 2018年度蔵前ベンチャー賞

企業名, 受賞者	受賞理由
<p>(1) Resonic GmbH (ドイツ) CEO ロバート・クレッパー 氏 2013年 機械工学博士課程修了 ㈱レゾニック・ジャパン 代表取締役 川口 卓志 氏 2006年 機械工学卒 2013年 創造エネルギー工学博士課程修了</p>	<p>東工大発ベンチャー 60号。大熊研究室のクレッパー氏が2011年ドイツで創業, 川口氏が2014年日本で創業。剛体慣性特性計測システム装置の開発・販売および受託計測サービス業務。新方式により重心位置, 慣性モーメントを高精度, 高速・簡便, 安価に計測することを可能とした。主な納入実績は欧州および日本の有力自動車メーカー, 人工衛星用途など。受託計測は日本のほぼ全ての自動車メーカーからリピート受注している。</p>
<p>(2) ㈱名校教育グループ 代表取締役 豊原 明 氏 2003年 物理学科卒 2008年 東京大学情報学博士課程修了 東工大研究員 (2008～ 2011年)</p>	<p>2009年創業。東工大発ベンチャー 57号。中国からの留学生 (旧姓魏大比氏その後日本国籍取得) による創業。中国から日本の大学受験予備校としてトップの実績を達成している。中国から年間2.7万人受験する中, 名校から4,000人が受験する。合格実績 (2014～ 2017年累計): 東工大: 135名, 東大: 93名, 京大: 66名, 早大: 584名, 慶應: 234名など。また, 日中文化交流の懸け橋としての社会的な貢献も大きい。</p>
<p>(3) ㈱ボスコ・テクノロジーズ 代表取締役 林 経正 氏 1994年 電子システム工学修士課程修了</p>	<p>2012年創業。現在の複雑なネットワークシステムにおいて時々刻々ユーザーニーズで変更されるシステムの監視とログ取得は重要である。これに関し, 踏み台サーバを設けてコンピュータやネットワーク装置を管理することにより, 運用の簡便性とセキュリティ保持の容易性を実現した。また, OSの種類に依存せずに, ユーザ毎に利用コマンドを制御する技術を独自に開発し, 「SMART Gateway」として製品化した。この技術の優位性が評価され, 大手通信会社, 官庁, 自治体, 大手銀行等での利用が拡大中である。</p>
<p>(4) 凱蒂亜知能設備製造有限公司 董事長 景 建平 氏 1992年 芝浦工業大学電気工学科卒 2009年 東工大知能システム科学博士課程修了</p>	<p>2006年11月景氏が東工大大学院在学中に東京で創業した。その後中国に製造拠点として6工場を設置。凱蒂亜はKTIの中国語表記, KTIはKnowledge Technology Innovationの略称。工場設備の省力化・知能化, 自動化製造設備を事業としている。特に日本の自動車メーカーの中国製造拠点化に際して日本の高品質のものづくりを強みとして実績を上げている。 蘇州蔵前会副会長。</p>

2. 『蔵前特別賞』受賞記念講演 1

「留学生を大切にする日本。文化・芸術の価値を知る日本」

株式会社ぐるなび代表取締役会長 CEO・創業者 滝 久雄 氏



このたびの特別賞は、私
の場合は、「もうひと頑張
りしなさい」という叱咤激
励をこめてのものであると
考えています。では、これ
から何を頑張るのか。それ

は留学生のこと、そして文化・芸術のことです。

界に広く知ってもらえることになるのです。そう
なれば、世界からもっと多くの優秀な人たちが、
今以上に「日本に行きたい」「東工大で学びたい」
となることでしょう。大学だけでなく地域での交
流も大切です。「同窓会」「地元商店街」も留学生
と交流してほしいと思います。

留学生を徹底的に大切にする

私は「留学生を徹底的に大切にしよう」と言い
続けてきましたが、声を出すだけでなく自ら行動
しようと考え、留学生との交流施設を作るための
寄付に至りました。日本人学生にとって留学生は
最も身近な外国であり、国際交流の場です。後輩
たちには、この「Taki Plaza」を大いに活かして
交流してほしいと願っています。

留学生との交流は付き合う時間の長さに価値が
あると思っています。学生はもちろん、先生たち
も、勉強、研究のことだけでなく遊びでも留学生
に徹底的に声をかけてください。

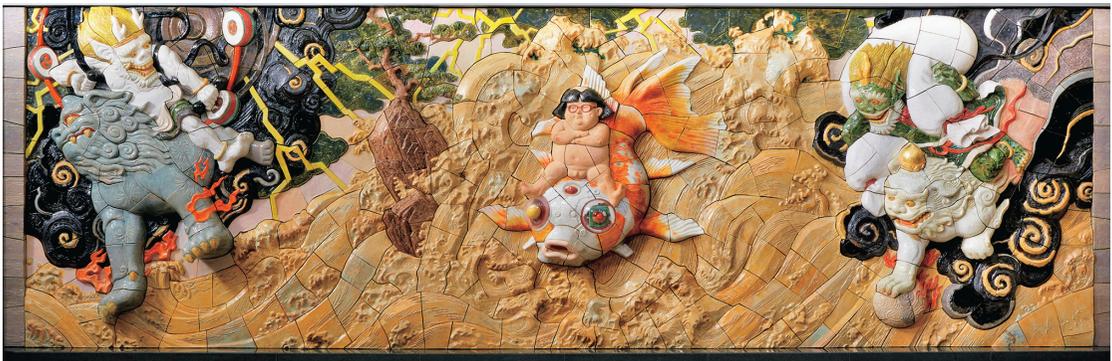
私は、日本はとてもいい国だと思います。人は
とてもやさしく、おいしい食文化をはじめ、数々
の素晴らしい文化があります。コミュニケーション
を重ねる中で、留学生たちは「日本はいい国だ」
と思ってくれるはずですし、母国に帰った後は日
本の良さを伝えてくれる広報担当になってくれる
ことでしょう。彼らを通して、「日本はつきあっ
てやさしい国、食べておいしい国」であると、世

日本も「1%フォー・アート」の実現を

私は、これまで文化をテーマに歩んできました。
食文化の「ぐるなび」は22年、「ペア碁」は29年、
「パブリックアート」は46年になります。

パブリックアートについては、これまでに全国
の駅や空港などに設置したステンドクラス、陶板
レリーフによる作品が528を数えます。日本交通
文化協会の理事長としてパブリックアートの普及
に努めていますが、本格的に取り組むようになっ
たのには、大先輩たちの影響がありました。平山
郁夫先生に同行した北京の街角で、先生は「経済
だけではなく芸術・文化の面でも世界から尊敬さ
れる日本人でありたい」と話されました。清家清
先生は、高速道路がかぶさった日本橋を見ながら
「文明が文化を駆逐している。残念なこと」とお
っしゃいました。そのような文化への思いを聞く
たびに、私の中に使命感が大きく育っていったよ
うに思います。

現在、パブリックアートに関するライフワーク
として「1%フォー・アート」の法制化に取り組
んでいます。公共施設の建築費用の1%を芸術・



仙台空港 陶板レリーフ (2015年)
「金華童子風神雷神ヲ従エテ波濤ヲ越クルノ図」原画・監修：大友克洋 (508号作品)

文化のために使うという制度で、フランスではアンドレ・マルロー文化大臣のときに法制化されるなど、すでに世界の各国で採用されています。しかし、日本は未だに制度がありません。税金を使

うことは、国民の合意を得るということであり、そのことが文化に対する価値観を醸成すると信じる中で、制度化の実現を強く願っています。

3. 『蔵前特別賞』受賞記念講演 2 東京工業大学の改革について～そして指定国立大学法人へ～

東京工業大学名誉教授（前学長） 三島良直 氏



受賞の対象は小生が2012年10月に学長に就任して以来、昨年3月までの5年半に渡り実施してきた東京工業大学の70年ぶりの大規模改革を評価していただいたものです。改革の成果はこれから数年あるいはそれ以上掛けて明らかになっていくと思いますが、この時点で同窓会である蔵前工業会に評価していただいたことは望外の喜びであり、心からお礼を申し上げます。またこの大きな改革の理念とそれを実現するための様々なシステム創りを経て、2016年4月からこれを実施できたことは東工大教職員の皆様の献身のご努力があってこそであり、改めて感謝申し上げる次第です。

さて今回の改革がどのような視点から計画・実施されてきたかを以下に要約いたします。

教育改革の視点；教育の質の転換

- 学生が在学中に自らを磨き、将来への夢と志を育むための教育システムとプログラムへの移行
- 高校までとは全く違う大学での学び方を初年次に実感できる仕組みを構築して積極的な学びに誘導
- リベラルアーツ教育を重視し、多角的なもの見方とグループワークにおける意見交換を通じて自分の意見を持ち、発言する力を養成
- 留学等様々な経験に挑戦する気概を育てる環境の提供
- 学生一人一人が学士課程、大学院課程を通してどれだけの能力と自信を身に付けて社会人

として送り出すことができるかが本学の使命

研究改革の視点；研究力強化・国際化と社会との連携

- 東工大の強い分野の研究者と研究内容を可視化して国内外に発信
- 国際共同研究推進のための人材の流動化と海外拠点の形成
- 現在社会が抱える課題の解決や未来のより良い社会の形成に必要な基盤的な研究に携わる教員グループに対する執行部が支援する仕組みづくり
- 産学連携の活性化、大型化による大学の自主財源を確保することにより基盤的財政を強化し、基礎研究への投資とさらなる教育研究力強化を実現

また構成員が一致団結して本学が世界トップクラスの科学技術系大学になるために必要な運営体制の構築についても腐心するとともに、学長のリーダーシップを高めるためのガバナンス改革についても他の国立大学に先立って実施をすることが出来ました。そしてこれらの改革全体が評価され、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学と並んで東工大は昨年3月に全国に5校しかない指定国立大学法人として文部科学大臣から認定されました*。このことは今回の改革の大きな成果の一つであり、本学が世界トップ10の研究大学を目指す確実な一歩だと考えます。

東工大の益々の発展を祈念しています。

*2018年10月23日付で大阪大が指定され、全6大学となっています。

4. 『蔵前ベンチャー賞』受賞記念講演 1 「重心位置と慣性テンソル計測の革新的技術 — レゾニック技術」

Resonic GmbH (ドイツ) CEO ロバート・クレッパー 氏, (株)レゾニック・ジャパン代表取締役 川口卓志 氏



**Resonic GmbH (ドイツ)
CEO**

ロバート・クレッパー 氏

Resonic started in 2011 as a spinout company of the Okuma-Lab at Tokyo

Tech and specializes in the development of measurement systems for complete mass properties: inertia tensor, COG, and mass. These measurements allow our customers in industries like automotive, aerospace and marine to predict, simulate and optimize the dynamic behavior of their products.

Mass property measurements are an old application which all three of Resonic's product lines solve in a unique way. Where competing products in the market are designed in such a way that the math between the data acquisition and the mass property result becomes simple, Resonic's products are designed in a way that simplifies the hardware and the measurement procedure. The resulting complex math is handled by Resonic's software, out of mind for the operator.

Resonic designs, manufactures and distributes measurement machines with capacities between a few grams and multiple tons. Resonic also owns machines it uses for measurement services in all over Europe and Japan. Having the capability to reach customers from two international locations - Berlin, Germany and Yokohama, Japan - has been a big contributing factor to Resonic's success so far.

The clear technological advantage and the outstanding sales performance of Resonic Japan allowed Resonic to start and continually grow from revenues instead of venture capital. Resonic has been profitable from year one

thanks to a quick entry into the motorsports market. Today, the more conservative aerospace industry contributes the largest share to Resonic's growth.

(株)レゾニック・ジャパン代表取締役

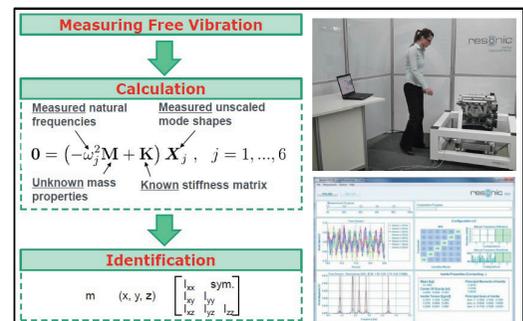
川口 卓志 氏

レゾニックグループはResonic GmbH (ベルリン) と、株式会社レゾニック・ジャパン (横浜) で構成され、Resonic GmbHはヨーロッパ地域を、レゾニック・ジャパン社はアジア・パシフィック地域をそれぞれ担当し、慣性特性計測機の販売と、



慣性特性の受託計測ビジネスを展開しています。慣性特性とは、質量特性や剛体特性とも呼ばれ、剛体の質量・重心位置・慣性テンソルといった、その剛体の運動を規定する非常に重要な量であります。非常に重要な量であるにもかかわらず、その全ての量を計測することはとても手間がかかったり、危険な作業が伴ったり、精度が悪かったりします。2010年にロバート・クレッパーが東工大在籍中に発明したレゾニック計測技術はそれらの欠点を全て克服した、とても独創的で卓越した技術であります。創業してから、Resonic GmbHは7年目、レゾニック・ジャパン社は5年目となりました。東工大発ベンチャーでは、初めての海外案件でもあり、また創業間もない時期から、欧州諸国、日本、中国、インドと、国際的にビジネスを展開しています。

慣性特性の受託計測ビジネスを展開しています。慣性特性とは、質量特性や剛体特性とも呼ばれ、剛体の質量・重心位置・慣性テンソルといった、その剛体の運動を規定する非常に重要な量であります。非常に重要な量であるにもかかわらず、その全ての量を計測することはとても手間がかかったり、危険な作業が伴ったり、精度が悪かったりします。2010年にロバート・クレッパーが東工大在籍中に発明したレゾニック計測技術はそれらの欠点を全て克服した、とても独創的で卓越した技術であります。創業してから、Resonic GmbHは7年目、レゾニック・ジャパン社は5年目となりました。東工大発ベンチャーでは、初めての海外案件でもあり、また創業間もない時期から、欧州諸国、日本、中国、インドと、国際的にビジネスを展開しています。



レゾニック計測技術の概要図

このたび、蔵前ベンチャー賞の受賞は大変名誉に感じており、これまでご支援いただいた、蔵前ベンチャー相談室の方々をはじめ、東工大、蔵前工

業会、応援してくださった全ての方々に感謝を申し上げます。

5. 『蔵前ベンチャー賞』受賞記念講演2

「多くの留学生の夢を実現させ、共に成長することを目指す」

(株)名校教育グループ代表取締役 豊原 明氏



ります。

2004年の設立当初は留学生の進学指導を中心としており、生徒数が10名ほどでしかない小さな進学塾でした。ここで学習指導を受けた学生たちの成績や実力が著しくアップしたため、瞬く間に多くの留学生に知られることとなりました。

近年では、留学生の多様なニーズに応じて、急激な生徒数の拡大を遂げ、さらには日本語学校や専門学校などの運営も行っております。

現在では、日本最大規模の中国留学生向け進学塾として、一般の総合大学や大学院への進学指導とともに、美術大学への進学指導も行っています。

もちろん、塾生たちの合格実績は、設立当初から現在まで業界のトップレベルです。

一方で、2016年に開校した、名校教育日本語学校は、ハイクオリティーな日本語教育支援を行うと同時に、名校志向塾の受験指導とのハイブリッド進学支援を実現することで、より多くの留学生の夢を実現させることに取り組んでいます。

また、留学生の増加により、大学進学以外にも多様なニーズや要望が現れてきました。

当社の主たる業務は、日本の有名大学や大学院に進学したいと希望する留学生たちの夢を実現させるために、彼らの進学支援を全力でサポートすることにあります。

そのニーズや要望を満足させるために、私たちはさらなる挑戦を続けています。

具体的には、「ファッションビジネス」、「アニメーション」、「ITプログラミング」などの留学生に大人気の3つの専門学校の運営です。

名校教育は、これからも高等教育機関や日本語教育機関との提携を拡大させてまいります。そして、留学生たちをより着実に合格へと導き、同時に有名大学への年間進学率を常に70%以上維持できるように努めてまいります。

これにより、ひとりでも多くの留学生たちの夢を実現させ、彼らの喜びを共有したいと考えています。

この為にも、早急に日本国内および海外で校舎や事務所網を設立強化し、グローバルな事業展開に力を入れようと計画しております。



「授業風景」

6. 『蔵前ベンチャー賞』受賞記念講演3

「GAFAなどの巨大企業に負けないITリソース制御システム：SMART Gateway」

株式会社ボスコ・テクノロジーズ代表取締役 林 経正氏

当社は「技術で人を幸せにする」を経営理念に2012年に設立した情報通信分野の企業になります。お客様のサービスや事業を支援するコンサルティング事業に発し、大手通信事業会社等の基

幹システムの受託開発事業に繋げ、当社製品の開発と販売へと事業を発展させてきました。我々は主に、「仮想化」「自動化」「情報セキュリティ」の技術開発に力を入れ、東京工業大学を始めとす

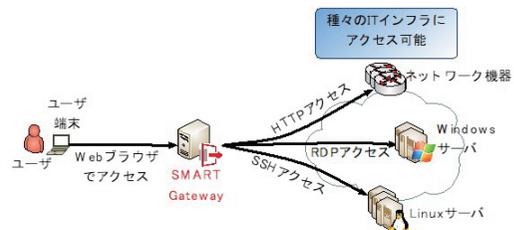


る国内有数の大学と共同研究を通して技術力の向上を図ってきています。そして技術開発で培った技術力を応用し、日本を始め世界の情報社会インフラの基幹システムを提供し続け、安定した事業基盤を築いてきました。

この度は、当社製品「SMART Gateway」の開発と販売事業を評価いただき、このような名誉ある賞を頂きまして、誠にありがとうございました。管理対象となるコンピュータやネットワーク装置上で動作しているOSの種類に依存せず、ユーザ毎に利用コマンドを制御する技術を独自に開発し、「SMART Gateway」という踏み台サーバとして製品化してきました。これにより、コンピュータやネットワーク装置の運用に影響を与えずに「SMART Gateway」を運用できるという、これまでにないセキュリティ製品の運用形態を可能にしました。その結果、官公庁、メガバンク、地方自治体、大手通信事業者など日本有数の組

織に利用していただけてきました。さらに、「SMART Gateway」を用いてコンピュータやネットワーク装置を管理することにより、複雑なネットワークがどのように運用されているか、改修がどうおこなわれているか、セキュリティの監視などあらゆる変化を監視、ログとして記録し、不正な操作を抑止していくことを可能にしました。

また、ビジネスの面以外でも当社の技術開発の活動が評価され、2017年には国際学会APNOMS2017にて基調講演を務めさせていただく貴重な機会も頂きました。今後は、事業の世界展開を推進してまいります。



SMART Gatewayを利用したITインフラ管理のシステム構成例

7. 『蔵前ベンチャー賞』受賞記念講演 4

知識、技術、イノベーションをベースに国際化に貢献できる企業をめざす

凱蒂亜知能設備製造有限公司 董事長 景建平 氏



KTIは中国蘇州工業園区に本社があり、ハイテク、新技術の創造に注力する企業です。KTIは精密自動機械、精密部品加工機、生産技術を組み込んだロボットシステム、最先端の知能化、

モジュール化、自動化生産ライン設備などの開発、設計、製造を行っています。コア技術として知能化視覚、複雑システム制御、標準化、モジュール化、生産ライン設計などを活用し、半導体、フラットパネル、自動車、家庭用電気機器、新エネルギーなどの製造業界に世界先端の自動化設備を提供しています。

KTIは設立して10年経ちました。東工大の多くの先生方、先輩達及び関係の皆様からご支援や応援をいただきました。これまでKTIは常に先端知識や技術をベースにして日々イノベーションを続

け、“First One, Only One, Best One”の物づくりを理念とし、数々の高い評価を受けた実績を作り上げました。設備製造関連で取得した発明、実用新案等の特許件数は合わせて70件を超えています。

KTIは常に国際的視野に立ち、日本、中国そして世界各地に産業ネットワークを構築し、一步先んじた技術開発を皆様と一緒に実現するとともに、これからも社会的責任も果たしていきたいと思えます。現在、中国において、中国電子科技大学、南通大学などの大学と産学研究を提携し、若い国際的エンジニア達の育成にも力を入れております。

この度、蔵前ベンチャー賞を受賞できたことは大変光栄でございます。ご支援頂いた蔵前ベンチャー相談室の皆様、また、今までKTIを育成、ご支援して頂いた皆様に感謝を申し上げます。これからもKTIは東工大の皆様と一緒に一層頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。